

「ああ、今年も西表島に来れた…！」西表島の上原港に着いたとき、すでに感慨深い気持ちになった。生徒を西表島に連れていくこの研修は、行くまでの手続きや準備を他の仕事と両立するのが本当に大変。今年も頭がおかしくなりそうだった（迷惑をかけまくったY先生！サポート本当にありがとうございました！）。そしてようやく行ける算段がついたと思ったら、今度は直前に「台風が来たー！」とヒヤヒヤする。到着できただけでも嬉しくなってしまうのだ。

ぼくがこの学校に来たのが10年前。その前から行われていた西表島研修は、コロナで一旦中断したが、去年5年ぶりに復活した。とにかく都会暮らしの生徒たちを大自然の中に連れ出したい、守るべきものをきちんと自分の目で見た上で環境問題について議論してほしい、といった思いで続けている。実物を見て、触れて、直接話を聞くことがとても大事だと思っている。現地ではこれまで見たことないようなみんなのキラキラした目を見れるし、今年のユイやユキナガのように、「これに参加したくてこの高校に来た」という生徒にも毎年出会えて、とても嬉しくなる。

今年も台風でハラハラする場面もあったが（後述）、そんなこと気にならないくらい最高の旅となった。今年も琉球大の渡辺先生に朝から晩まで散々お世話になり（渡辺先生は神！足を向けて寝られません！というのが西表メンバーの共通認識だ）、マングローブ林を案内していただいた。昨年台風でできなかったカヌーでのマングローブ観察を今年は実施することができた。カヌーやトレッキングをしながら、ポイントごとに専門家が生物について解説してくださる。いつも言うが、本当に贅沢な研修だ。渡辺先生は、「なぜこうなっているのか」を生徒に考えさせながら案内してくれる。「授業ではこう習ったから…」と教科書の知識を何とか絞り出して頭を悩ませるみんなの姿を見て、学んだ知識と実体験をつなげる作業の大切さを改めて実感する。

以下は自分の記録用にちょっとした裏話を書いておく。今年は最終日に、なんと2つの台風が直撃する予報が出た。帰る日の前日、「明日は船が欠航して西表島に取り残されるかもしれない」と言われた。今日のうちに石垣島に渡ってしまうか、延泊覚悟で西表に残るか…。我々教員は、予定が変わるなんて気が気じゃなかったが（宿の確保とかどうすんの？！とか）、ルイたちは「西表の期間が延びるなら最高ですね！」と嬉しそうな顔。こっちの気も知らねえでこいつら…！と思ったが、彼らのこのポジティブさに気持ちが楽になったのも事実だ。そりゃ西表島に長居できるなら嬉しいか。結局、気象情報やらをかき集め、西表島に残ることを決断。翌日は読み通り台風が弱まって無事に予定通りの日程で帰ることができた。帰りのフェリーに乗れた時、一気に肩の荷が下りて力が抜けたのをよく覚えている。行くまでも大変。帰るのも大変。大変なんだけど、それに見合うほどの経験をさせてあげられちゃうから、やめられないんだよねー。



マングローブ林をカヌーで進む！

陸側、海側、両方からマングローブ林を観察し、木の立ち方や根のつき方、樹種の違いなど、生き物の環境に応じた生存戦略について学んだ。カヌーで進むのは結構大変。ぼくは手にマメができてしまった…。



浦内川のマングローブ（ヤエヤマヒルギ）

浦内川は日本で最も魚の種数が多い川。マングローブの根が多くの生物の住処になっているのも一つの理由だ。



土が温泉卵のにおい？

マングローブ林を歩くと、「硫黄くさい」と口々に言う。なぜだろう？とみんなで考えてみる。海水があるため地面が酸素の少ない嫌気的な環境になるので、硫黄細菌が化学合成を行い硫化水素を出しているのだ。



落ち葉を食べる巻貝・キバウミナナ
落ち葉を貝が食べて分解する？！不思議な光景だ。



水に入りながらマングローブ林を歩く！

転びそうになりながら歩きつつ泳ぎつつ進む。これだけ海水が来る場所に木が生えているのが本当に不思議だ。



溪流を歩く！岩に登る！

台風の影響もあり、川の水はとても冷たい！みんなが一生涯懸命歩中、サンダルですたすた進む渡辺先生…タダモノじゃない！



マングローブ林に住むアナジャコ
普段は穴の中にいるのでなかなか姿を見ることができない。